

SS 化学部 Taiwan International Science Fair 参加

日 時 平成30年1月30日（火）～2月2日（金）
場 所 国立臺灣科學教育館（National Taiwan Science Center）
参加者 SS 化学部 2 年生 2 名

台北市で開催された 2018 臺灣國際科學展覽會 Taiwan International Science Fair に化学分野で参加して、1 月 31 日に、「銅の腐食と起電力」（第 14 回高校化学グランドコンテスト文部科学大臣賞受賞研究）の発表をしました。審査員の方々に對して 10 分以内にポスター発表し、5 分で質疑を行います。発表時間を少し超えてしまったものの、何とか終わることができましたが、審査員の方々の質問にうまく対応することができなかつたのが心残りでした。残念ながら、私たちは賞をとることはできませんでしたが、この大会への参加で数々の学びを得ました。この経験は、私たちの人生に大きく影響を与えるであろうと思います。

開催前日夜の Welcome Dinner では、TISF 関係者、すべての国の参加者、台湾の高校生と交流しました。私たちは富山県を紹介し、「ドラえもののうた」を歌いました。「ドラえもん」は外国でもよく知られているキャラクターなので、歌っている間に皆さんから手拍子が起きました。他の方々も、自国の紹介や歌や踊りなどのパフォーマンスを行い、場の雰囲気は大いに盛り上がりしました。

1 月 30 日の Opening Ceremony では、代表生徒が前日に製作した国旗、建物、自然など、その国が一目で分かる素晴らしいデザインの白衣を披露しました。私の順番の時には、ステージに出た際に“こんにちは”など、観客の方から日本語で声をかけていただきました。Opening Ceremony 後の Icebreaker Event では、各国の生徒の混成チームでゲームを行いました。英語が上手な人ばかりで、コミュニケーションをとるのに一苦労でしたが、根気よく話したり、ジェスチャーを混ぜたりすることで、楽しみながら無事終わることができました。どの国の生徒も、とてもフレンドリーで、交流を深めることができました。

審査日である 2 月 1 日の午前中は Cultural Tour で、古くから台湾の陶磁器産業の拠点である新北市鶯歌にある鶯歌陶瓷博物館（Yingge Ceramics Museum）に行きました。台湾の陶磁器の歴史の解説や、茶器などの陶器の展示があり、歴史の積み重ねによる、陶磁器の進化や、技術の高さが伺えました。昼食時に一緒にテーブルについてスイスの高校生に目の前で作った折り鶴をプレゼントして、交流がさらに深まりました。その後は、陶器作りの体験があり、ろくろを使って粘土から好みの形の陶器を作ったり、自分の好きな柄のシールを貼ってオリジナルマグカップを作ったりしました。

2 月 2 日午前中の研究の一般公開では、私たちの研究に興味を持ってくさる方が沢山いました。中には日本語を勉強している台湾の生徒や学生の方もいて、日本語で発表することもありました。発表する側も、聞く側も、もてる限りの英語スキルや、時には翻訳機能を使うなど、お互いの伝えたいことを一生懸命伝え合いました。午後には、成績発表を含めた閉会式がありました。台湾の蔡英文総統が列席され、Young Scientist Award の表彰をされました。分野別の表彰式では、同じ化学分野で日本から参加した群馬工業高等専門学校の研究発表が Second Award に輝き、日本の発表が受賞して嬉しかったです。閉会式後は Tear Down の時間で、受賞者を讃えたり、友達になった方との帰国前の最後の交流などを行ったりしました。

